

ライブラリーナビゲーター

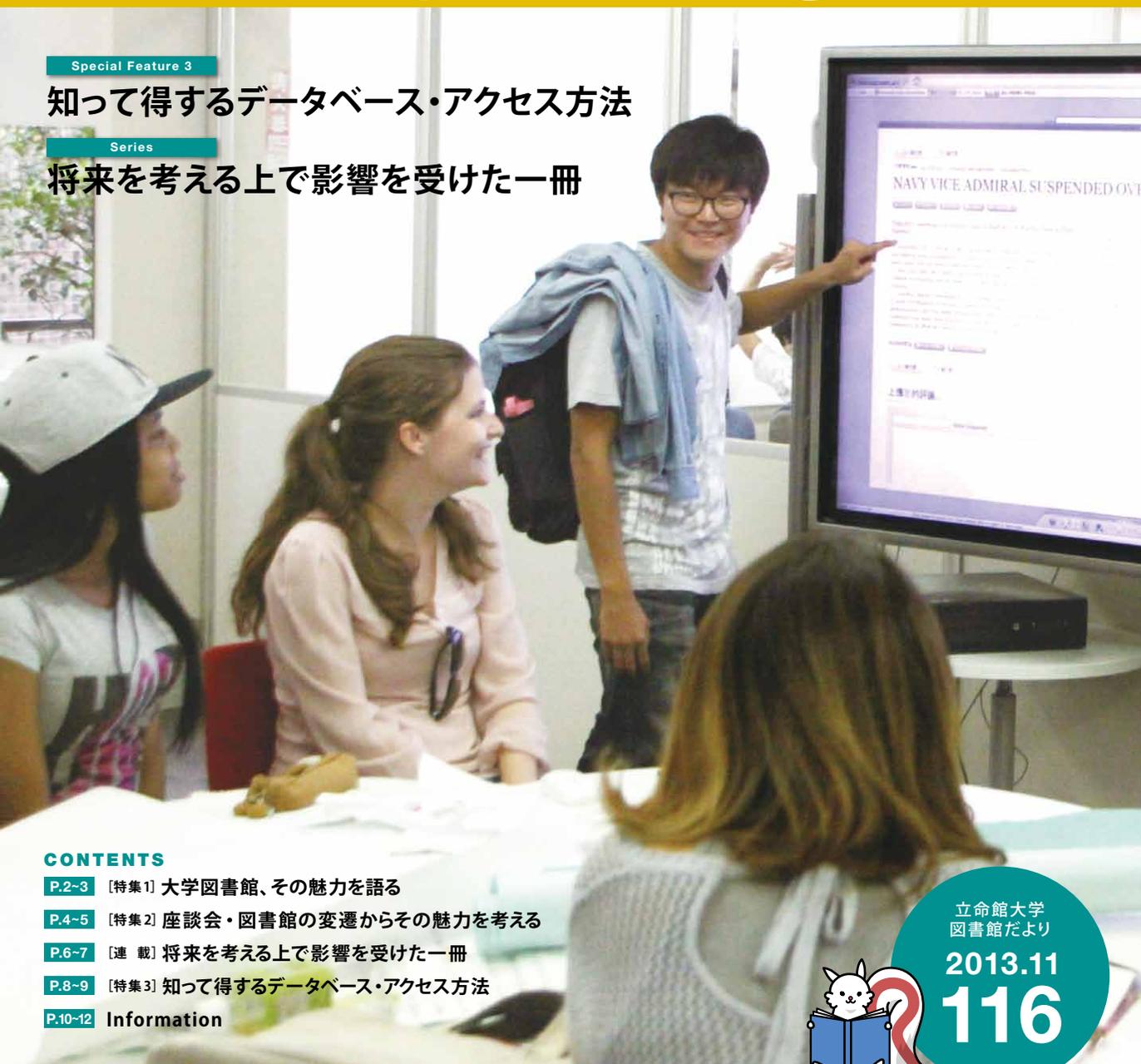
# Library Navigator

Special Feature 3

## 知って得するデータベース・アクセス方法

Series

## 将来を考える上で影響を受けた一冊



### CONTENTS

- P.2~3 [特集1] 大学図書館、その魅力を語る
- P.4~5 [特集2] 座談会・図書館の変遷からその魅力を考える
- P.6~7 [連載] 将来を考える上で影響を受けた一冊
- P.8~9 [特集3] 知って得するデータベース・アクセス方法
- P.10~12 Information

立命館大学  
図書館だより

2013.11  
116



図書館イメージキャラクター  
よむりす

# 大学図書館、その魅力を語る

## 図書館のいいところは？

それは情報へのアクセスとスタッフによる支援。  
そして友達同士で学び教えあえる環境。

皆さんは、大学図書館にどのようなイメージを持っていますか？大学で図書館をどのように活用していますか？京都や滋賀の公共図書館と大学図書館の大きな違いは何でしょうか？大学入学前の高校の図書室と大学図書館はどう違うと思いますか？皆さん一人ひとり回答は違うと思いますが、キャンパスで「大学図書館は学びの交差点」というポスターを見たことがあるでしょうか。それが、大学図書館の大きな特徴を示していると思います。

数十年も前の私が大学生のころ、大学図書館に抱いたイメージをお伝えします。入学当時、大学図書館に行く所高校図書室と比較できないくらいいっぱいの本がありました。それも小説ではなく専門書で、その多さに驚いた記憶があります。大学図書館って知的な情報の倉庫だと。試験前には図書館にいました。静かな館内で効率よく勉強できたと思います。大学院生になってからは、図書館で購読していた多数の専門雑誌や論文誌から、研究に関係した論文を探しに行きました。つまり、図書館のいいところは、情報へのアクセスと環境かな？それについてお話ししましょう。

立命館大学図書館では300万冊を超える多くの専門書を保有しています。最近では、書庫にある専門書だけでなくデジタルライブラリーと呼ぶ電子的な専門書へのアクセスも可能となっています。つまり全世界の最新の電子図書や情報が館内から自宅から図書館経由で利用できるのです。論文・記事検索（データベース）の図書館ページにアクセスしてみてください。ニュースや辞書、判例や統計データだけでなく、専門誌や国際会議の論文などの世界の最先端技術へのアクセスが簡単にできるようになっています。このような大規模な電子図書館機能を提供しているのは国内では珍しいでしょう。

図書館では利用者のために多くのスタッフがサポートしています。図書館でのスタッフといえば司書です。立命館大学図書館では総勢約50名の司書がサポートしています。司書は利用者の利用目的に応じたきめ細かな支援を行っています。その一番大きな支援はレファレンスサービスです。このサービスは、皆さんが勉強や研究で困ったときにそれに必要な資料の検索や提供を皆さんのためにしてもらえ素晴らしいサービスです。インターネットで見つけた情報のコピペでレポートを作成しないでください。司書に相談すれば多くの資料から必要な資料集を見つけてくれます。その資料熟読によって得た自分の考えをレポートにするようにしてください。このような知的訓練を数多く積み重ねることで皆さんの人間力は大きく成長することでしょう。また、立命館大学図書館では、図書館業務に関心のある学生がライブラリースタッフとして皆さんのサポートをしているのも大きな特徴です。学生の皆さんと同じ視点で皆さんのサポートを行うと同時に、より良い図書館づくりに貢献しています。

今、世界の大学図書館では大きな変化が起きています。情報アクセスとスタッフによる支援環境を図書館が提供するだけでなく、皆さん同士が、図書館内で学び・教え合う環境を提供していこうという動きです。皆さんが世界で競争できるような社会人になるには、自分で問題を見つけて解決し実行できる力が不可欠です。そのためには、友達同士で学び教え合い友達から刺激を受け、足りない力を伸ばすことを心がけなければいけません。そのために、立命館大学図書館では2011年から「びあら」を提供しました。多くの図書館でも、このラーニングcommonsという新しい概念の環境が提供されています。積極的に「びあら」を活用して自ら成長してください。



川越 恭二 先生  
情報理工学部教授  
図書館副館長

## 学生どうしによる主体的で創造的な 学びのスタイルは躍動していますか？

皆さん、「びあら」の使い勝手はいかがでしょう。そこに「学生どうしによる主体的で創造的な学びのスタイル」は生まれているのでしょうか。

「びあら」が立命館大学に開設されて約2年半が経ちます（衣笠に2011年、BKCには2012年に開設）。「びあら」のような空間は、一般に「ラーニング・commons（Learning Commons: 以下LC）」と呼ばれています。近年、大学に求められる学びは、従来のひとりで静かに行うものから、活発に他者と議論することから協同で知を生み出そうとするものへと変化してきています。「びあら」の開設を構想していた当時は、まさにそのような学びに対応するための空間であるLCの設置に、国内のさまざまな大学が取り組み始めていた時期でした。とはいえ、そのモデルは北米の大学の先進的な事例にあり、言い換えれば、どの大学にも似たようなLCが量産されはじめていた時期でもありました。そこで、私たちには立命館大学独自の学びを生み出すような「びあら」としての特徴が必要だと考えました。

LCの基本構成要素として、可動式の机・イス、プレゼンブース、大画面モニターやプロジェクタ、ホワイトボードなどがあげられます。もちろん、「びあら」にもすべてが揃っています。しかし、これらはどこのLCにもありうるモノです。そう、どんなに「そこに何があるのか」というモノの名前を連ねても、それは「びあら」自身の大きな特徴にはなりません。では、「びあら」の特徴とは何か。開設前に私たちはよく考えなければなりませんでした。

それは「そこで皆さんがどのような学びを創造するか」にあります。たとえモノが同じであっても、その組み合わせによってどのような学びが生み出されるかは、その利用者や利用方法によって異なってきます。つまり、皆さんが気安く・普通に・楽しく使える状況で、さらにそれを使う皆さんの姿がカッコよく映らないと、空間・設備自体がそもそもよく利用されません。設備が最新で高いスペックのものが揃えられていても、利用手続きが面倒だったり、やたら注意事項が多かったりして、ほとんど使われず開店休業の施設をよく見かけます。「びあら」はそのような状況にならないよう、利用者中心の運用に注力しました。



空間から隠れ、活動が表出するよう意図しました。

このように「びあら」においては、利用者中心の考えを浸透させることをそのデザイン原則としました。開設から約2年半が経った今、そこに「学生どうしによる主体的で創造的な学びのスタイル」は生まれているのでしょうか。その現状が他大学・他事例にはない「びあら」としての大きな特徴であり、多方にアピールできるものだと考えます。



八重樫 文 先生  
経営学部准教授  
学生の主体的な学びを支援する空間  
“びあら”（ピア・ラーニングルーム）の  
デザイン・マネジメントを担当

## 図書館の変遷からその魅力を考える



本座談会に参加した4人の4回生は、学生ライブラリースタッフ（以下LS）として多くの時間を図書館で過ごしてきました。そうした図書館をよく知る皆さんに、現在の図書館の魅力を過去との対比から大いに語ってもらいました。

### 「びあら」で変わった「学び」のスタイル

**竹井** ●私の中で一番の変化は「びあら」ができたことです。「びあら」ができる前は、図書館でグループ学習をしようとすると、予約が必要なグループ学習室という限られた空間しかなく、利用しづらかったですね。でも「びあら」という何でも話せるスペースができ、よく利用しています。またLSの立場から「びあら」を見ると、いろんな使い方がされていて、特に文系ではプレゼンの練習風景が見られ、すごく魅力的です。

**安達** ●図書館の本を使って、10人くらいで勉強しているグループを見かけます。私は情報理工学部なので、パソコンをよく使いますが、「びあら」に設置されている大型ディスプレイとパソコンを利用しながら資料作成をすることが多いです。

**和田** ●僕も「びあら」が一番大きいと思います。レポートやプレゼン準備の際、これまでは本を借りて、家に持ち帰って作業することが多かったのですが、「びあら」ができて、図書館内で図書資料やパソコンを使って、他の人たちと作業できるようになり、人との繋がりが深まったと思います。それから他の学生の様子が見られるのは魅力ですね。例えば、めちゃくちゃカッコいいプレゼンを作っている人を見かけると、自分も見習いたいなあという良い影響を受けます。自分が見られていると思うと、ちゃんと勉強しないと！と思うので、お互いを高めあう効果があるかな。

**高木** ●1つ目は私も「びあら」で、周りの人から見られる環境は良いと思います。衣笠図書館は1階に「びあら」があり、ガラス越しに外から中の様子が見えるんですよ。私はよく図書館の前を通りますが、図書館にいない時でも、みんなが頑張っている様子を見て、私ももっとがんばらなきゃと刺激を受けます。以前のマルチメディアルームには暗幕がありましたが、それがなくなり明るい印象になりました。また、衣笠図書館前の新聞掲示板には、海外と日本の新聞計8紙の一面が貼り出されており、一面だけ見たいときに便利で、よく利用しています。



高木 彩穂里さん  
文学部4回生

### 変化しつづける図書館



**高木** ●図書館の変化で1番印象深かったものは、図書館イメージキャラクターの「よむりす」が誕生したことですね。LSになってすぐ、「よむりす」が誕生してすぐうれしかったです。図書館のポスターや広報物にキャラクターが出てくることで、今まで図書館に馴染みがなかった人でも、かわいと言ってくれたり、図書館に親しみをもってくれたりしたと思います。また、「よむりす」のグッズを通じて図書館の機能を知ってくれる人が増えるなど、キャラクターの力は大きいと思っています。

**和田** ●私は貸出の上限冊数が10冊から20冊に変更されたことですね。私自身は本を借りることはあまりないのですが、文学部の友達などからは、卒業論文を書く時には10冊では足りないから、20冊になってうれしいとの声を聞きます。私自身、一番恩恵を受けたのは、試験期の特別貸出が今年からなくなり、通常通り借りられるようになったことですね。

**竹井** ●Discovery Serviceで、あるキーワードに対して一括でいろんな資料を検索できるのは便利ですね。論文を書く際、まずCiNiiでキーワード検索をしますが、大部分がオープンソースではないので、次にRUNNERS Discoveryを使って資料などを探します。



竹井 尚徳さん  
経済学部4回生

**和田** ●私はデータベースを使う機会はあまりないですが、特に大学院から立命館に来た方は、他大学に比べてデータベースの数が多くことにびっくりしています。そういう人にとってDiscovery Serviceはすごく良いと思います。

**高木** ●公共図書館だとまだまだ飲食は駄目というところが多いので、飲み物が許可されているのは良いですね。

**和田** ●ドリンクポリシーはテスト前に一日中図書館にこもって勉強する時に良いと思います。

**竹井** ●それから、メディアライブラリーの4階以上に行く際の入講証がなくなって、4階から6階の資料が使いやすくなりましたね。

**高木** ●RUNNERSの検索画面も少しずつ変化してきて、本の

表紙の画像が出るようになり、目次などの書籍情報が詳しくわかるようになったので、図書館に足を運ばずに、本当に必要な本かどうかを見極められて、便利なサービスだと思います。

**竹井** ●MyLibraryで今まで読んだ本の履歴が見られるようになったのは良いですね。

**和田** ●僕はあまり図書館で本を借りないので、もっと読まないと思います(笑)。

**竹井** ●LSの声を掲載している「VOICE」も充実してきていますね。

**和田** ●進路就職コーナーの資料を2回生などの早い時期から手にとっている人もいますね。図書館＝学術書というイメージがありますが、こうした情報を手に入れられる場所でもあります。本だからその信頼性もあり、就職活動のときは助かりました。



和田 龍助さん  
法学部4回生

### 図書館を利用する学生の変化

**安達** ●「びあら」ができる以前は1人で静かに図書館を利用



している学生が多く、すごくまじめな方が多いイメージでした。だけど「びあら」ができてからは、まじめだけれど、1人で勉強するだけでなく、みんなで話し合っ

て話し合っ勉強する活発な学生が多くなって、利用者が明るくなった気がします。(全員うなづく)

**和田** ●「びあら」に誰か友達がいるかもしれないと思って、とりあえず「びあら」に行ってみようという人がいるなど、みんなで集まる場所になっていますね。

**高木** ●それから、2、3階の個人用の机でも、以前は本だけを置いて勉強している人が多かったのですが、ノートパソコンを館内で利用できるようになってから、パソコンと本を使って作業している姿を見るので、これも大きな変化だと思います。

**和田** ●みんながアクティブになった気がしますね。

**高木** ●利用できるツールも増えましたし、周りの人と話し合える環境もできたことで、できることが広がったのではないかと思います。

**竹井** ●私は4回生で就職活動をしていましたが、データベースを使うようになりました。特に「日経テレコン21」は企業の情報を調べる上で重宝しました。

**和田** ●学年ごとに図書館の使い方は変わって行きますね。図書館についてどんどん詳しくなって、それに応じてより深く使うようになっていくのかなと思います。1、2回生からもつ

とうまく使っていたらと自分自身を振り返って感じますね。

### 立命館大学図書館の魅力とその活用法

**高木** ●衣笠図書館の魅力は蔵書の数だと思います。LSではない利用者が図書館に入って使うところといったら、「びあら」と読楽コーナーや進路就職コーナー、自分の学部に関係する本のところだと思いますが、私はLSになってから、配架業務を通じて他のいろんな棚を見るようになりました。そこにある本の背表紙を見ると、おもしろそうだなと思える本がいっぱいありました。よく公共図書館にも行きますが、冊数も少ないですし、蔵書の種類も全然違います。自分が興味のない分野でも、本の背表紙を見るだけで新しい発見がありますので、そういう使い方を利用者がしてくれたらと思います。

**和田** ●図書館はやっぱり知らないものに出会える場所だと思います。教員お薦め本や読楽コーナー、「今月の特集」本など、本来なら自分が興味を持たずに読まなかった本と出会うしかけがあり、自分の興味分野以外にも飛び込んでいける環境があることは幸せだと思います。ですから、1回生には積極的に図書館を使って欲しいと思いますし、卒業間近になって、「もうちょっと使っておけば良かった」と後悔することがないように、今から意欲的に使っ

て欲しいと思います。**安達** ●私は、本をたくさん借りるというよりは、持参した資料を使って、勉強するために図書館を利用することが多いです。今は「びあら」ができて集団でも勉強できるし、閲覧室で1人黙々と勉強もできるし、すごく集中したい時はパーテーションで区切られたところで集中してできる。いろんな学びのスタイルを実現できるというのは魅力的だと思います。これから利用する人にはいろんな学びのスタイルが図書館にあることを知ってほしいと思います。



安達 瀬菜さん  
情報理工学部4回生

**竹井** ●図書館のホームページの中にLSが作成した「図書館へ行こう!」というページがあって、そこに「対談:先生×学生」というコーナーがあります。先生の学生時代の図書館の使い方や、学生にこういうふうに図書館を使って欲しいなどの情報が載っていたりして、1、2回生が見たら参考になると思います。あと、学部を超えた先生との交流はあまりないと思いますが、その対談を読むことで、「この先生はこういう考えを持っているのか」ということが分かり、良いと思います。ただ、このコーナーは目立たないところにあるので、こうしてLibrary Navigatorで宣伝してほしいです(笑)。

**高木** ●それから学生ライブラリースタッフにぜひ気兼ねなく質問してください(笑)。



連載

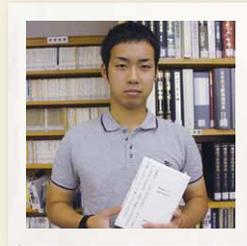
# JA(ジュニア・アドバイザー)が贈るお薦めの一冊 将来を考える上で影響を受けた一冊

Contents ① 本人情報 ② 書誌情報

志望する業界のネガティブな面が示されてあり、いい意味で熱が冷め、キャリアを考えるいい素材となりました。



- ① 小西 直希さん  
法学部 法学科 4回生  
農林中央金庫 内定
- ② 『大解剖日本の銀行：  
メガバンクから地銀・信金・信組まで』  
津田 倫男 著 (平凡社) 2012年



モノだけでなく人材もコモディティ化している現在、自分の価値を高めなければならないというメッセージに感銘を受けました。

- ① 今井 脩悟さん  
産業社会学部 現代社会学科 4回生  
京セラドキュメントソリューションズ株式会社 内定
- ② 『僕は君たちに武器を配りたい』  
瀧本 哲史 著 (講談社) 2011年



直接的な助言はありませんが“働く”ということに実感を持てなかった頃、社会における自分の立場や自分のできること・やるべきことを改めて考えるきっかけとなりました。

- ① 山岡 史佳さん  
国際関係学部 国際関係学科 4回生  
株式会社IHI 内定
- ② 『悩む力』  
姜 尚中 著 (集英社) 2008年

決して自分のスタイルを曲げないこと、逆境に負けないこと。シャネルの言葉には「女性の背中を押す力」があります。

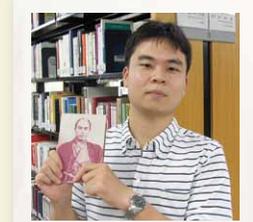


- ① 小切 琳子さん  
経営学部 経営学科 4回生  
花王株式会社 内定
- ② 『シャネルの真実』  
山口 昌子 著 (新潮社) 2008年



心・技・体を整える。すぐに実践できる方法が満載。最高の自分をセルフアップローチ！

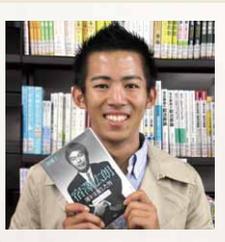
- ① 徳田 将大さん  
スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 4回生  
エスピー食品株式会社 内定
- ② 『最高の自分のつくり方：ビジネス×アスリート・トレーニング式』  
大西 みつる 著 (日本能率協会マネジメントセンター) 2013年



学を持つ人間がどう振舞うべきか書かれており、大学での学びを、いかに社会で生かすかを考える、良い参考になると思います。

- ① 西 拓紀さん  
理工学研究科 M2  
株式会社IHI 内定
- ② 『学問のすゝめ』  
福澤 諭吉 著；小室 正紀、西川 俊作 編  
(慶應義塾大学出版会) 2009年

この人の生き様を見て熱くならない人はいないと思います。社会人として生きることを考えるきっかけを作ってくれた一冊です。

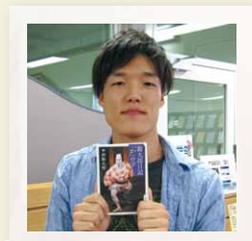


- ① 高野 遼さん  
政策科学部 政策科学科 4回生  
株式会社三井住友銀行 内定
- ② 『宿澤広朗：運を支配した男』  
加藤 仁 著 (講談社) 2007年

仕事の、人生のヒントがぎゅっと詰まった一冊。読み終えたあと、ふだんの景色が違って見えているはず。



- ① 浅井 萌香さん  
文学部 人文学科 4回生  
ハウス食品株式会社 内定
- ② 『20歳のときに知っておきたかったこと』  
ティナ・シーリグ 著；高遠 裕子 訳 (阪急コミュニケーションズ) 2010年



自己分析の方法として、成功者の自叙伝を読むことはおすすめです。中でも「挑戦や創造」をテーマにする人々はこれを読んでもらいたいです。

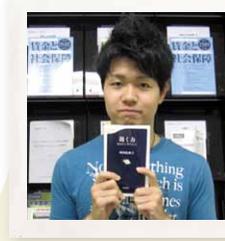
- ① 尾崎 亮太さん  
経済学部 経済学科 4回生  
サントリー食品インターナショナル株式会社 内定
- ② 『勤九郎日記「か」の字』  
中村 勤九郎 著 (集英社) 2007年

仕事とは何か漠然としていてよく分らなかった自分に、働くとはどういうことか勉強させてくれた一冊です。



- ① 吉岡 秀晃さん  
情報理工学部 情報コミュニケーション学科 4回生  
IT業界 内定
- ② 『リクルートという奇跡』  
藤原 和博 著 (文藝春秋) 2005年

自分を知るには「生きた情報」を引き出すことが大切です。私はそのスキルをこの本から学びました。



- ① 小山 晋太郎さん  
生命科学部 生物工学科 4回生  
株式会社 三笑堂 内定
- ② 『聞く力：心をひらく35のヒント』  
阿川 佐和子 著 (文藝春秋) 2012年

どのような職業が世の中にはあり、自分は何に向いているのか？その疑問を解り易く解決し、職業選択の助けとなる一冊です。



- ① 秋葉 唯さん  
薬学部 薬学科 6回生  
武田薬品工業株式会社 内定
- ② 『新13歳のハローワーク』  
村上 龍 著；はまの ゆか 絵 (幻冬舎) 2010年



recommend books...

レポート作成、就職活動で活用できるデータベースが自宅や外出先からでも使えるって知ってますか？

## 知って得する データベース・アクセス方法

特集 3



立命館大学では新聞記事、企業情報、学術論文を始め、60を超える有料データベースを契約し、学生、教職員の皆さんに提供しています。

大学のキャンパス内では意識することなく、自然に全て使えるのに、自宅や出先のネットワークからだと使えなくて、あきらめている人はいませんか？

出張先や企業訪問先で知りたいことが調べられたら、どんなに便利だろうと考えたことは無いですか？

こんなコンテンツがあなたを待っています。

### 企業情報は24時間、いつでもチェック！



#### ● 聞蔵IIビジュアル (朝日新聞)

朝日新聞創刊号(1879年)以降の記事検索ができます。紙面イメージ表示や切抜きイメージ表示なども可能です。現代用語辞典「知恵蔵」、AERA(創刊号～)、週刊朝日(2000年4月～)、各界著名人の最新情報「人物データベース」や満州事変の前後から終戦までの間、アジア各地へ派遣された特派員や記者が撮影した写真約1万枚をデータベース化した「朝日新聞歴史写真アーカイブ」も利用できます。

#### ● ヨミダス歴史館 (読売新聞)

読売新聞創刊号(1874年)以降の記事が検索できます。同時に、167万件を越す広告の検索も可能です。

#### ● 日経テレコン21 (「日本経済新聞」「日経産業新聞」「日経MJ(流通新聞)」「日経金融新聞」)

記事全文を利用できます。企業情報、地域経済統計なども調べられます。

#### ● 日経BP記事検索

日経BP社のビジネス関連雑誌からトレンド・教養雑誌までの約40誌のバックナンバー記事全文を利用できます。パソコンスキルアップ講座も便利です。

### 自宅はもちろん、通学途中の電車の中で最新の学術情報をゲット！



#### ● CiNii (日本の論文を探す)

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できます。

#### ● LEX/DB Internet

明治8年(1875年)の大審院の判例から今日までの判例の全文を検索・利用できます。民事法、民事特別法、公法、社会経済法、刑事法のすべての法律分野を調べられます。

#### ● EBSCO host

世界中の様々な分野の雑誌論文を検索できます。広範囲な分野の雑誌8,100誌以上を収録した「Academic Search Premier」や、経済・経営分野の「Business Source Premier」等があります。

## VPNを使おう

立命館大学は多種多様なデータベースを皆さんが利用できるようしています。その上、キャンパス内に限らず24時間どこからでも使えるサービスが、VPN (Virtual Private Network) です。この設定を行うと、自宅や外出先などからインターネット(商業プロバイダー)を使って安全に立命館大学のネットワーク(立命館統合情報システム:RAINBOW)に接続し、学内で利用するのと同じ感覚で、いろいろなデータベースが使えるようになります。

VPNを使うためには、前もって①利用登録、②パソコンの設定、③ブラウザの設定が必要です。

詳しくは、RAINBOWのページをご参照ください。



### ▶ 「在学生のみなさまへ」のページから



詳しくは、検索サイトで「立命館 VPN」を検索してください。 [立命館 VPN](#) [検索](#)



## RUNNERS Discovery この1年間で コンテンツがこんなに増えました。

※RUNNERS Discoveryは所蔵する図書・雑誌だけではなく、電子ジャーナル・E-Bookなど、まとめて検索できます。

RUNNERS Discoveryは2012年7月、国内では最先端の学術情報検索サービスとしてスタートしました。そして、約1年間で以下のデータベースが新たに搭載・検索できるようになりました。

今後も、搭載データベースが増えていく予定です。  
ますます便利になるRUNNERS Discoveryをご利用ください。



2013年7月現在

分野	データベース名	製作元	全文検索
生物 / 環境科学、生態学分野	BioOne Online Journals	BioOne	可
工学技術	AccessEngineering	McGraw-Hill Companies, Inc.	可
学術総合	SwePub	National Library of Sweden	不可
科学文化	RACO	Universities de Catalunya, Consorci de Biblioteques	可
企業レポート (市場分析)	Mintel Oxygen Reports	Mintel International Group Ltd.	可
自然科学 人文科学 応用科学 など	HyRead Journal (台湾全文資料庫)	Hyweb Technology Co., Ltd.	不可
学術総合	Oxford Reference	Oxford University Press/UK	可
アメリカの歴史及び文化研究分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>Frank Leslie's Weekly</li> <li>The National Anti-Slavery Standard</li> <li>National Citizen and Ballot Box</li> <li>The Revolution</li> <li>American County Histories IV: West</li> </ul>	Accessible Archives, Inc.	可
学術総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>University Press Scholarship</li> <li>Online</li> <li>Oxford Dictionary of National Biography</li> </ul>	Oxford University Press	可
学術総合	University Online Library (ロシア)	University Online Library (ロシア)	不可
スペイン語学術文献	Digitalia	Digitalia	可
学術総合 (日本)	JAIRO	NII	不可
英国の議会資料	Public Information Online	Dandy Booksellers (イギリス)	不可
フランス語の学術論文	Persée	Persée	可
市場調査レポート	Freedonia	The Freedonia Group	可
ハーバード大学蔵書カタログ	Harvard Library Bibliographic Dataset	ハーバード大学	不可

## “読楽コーナー”学生選書 前期活動報告

衣笠図書館、メディアセンターにおいて、学生有志による読楽コーナーの学生選書を行い、選書した本を2013年7月3日(水)に展示しました。学生目線で選んだ読みたくなる本がたくさんあります。ぜひご利用ください。

**衣笠キャンパス**  
テーマ▶「広読のすゝめ」

8名の学生の皆さんが、幅広い分野の図書を読んでもらいたいとの思いから、選書しました。

**びわこ・くさつキャンパス**  
テーマ▶「今日の出逢いが明日を創る」

4名の理系学生の皆さんが、本を読むことで様々な出逢いを感じてもらいたいと思い、選書しました。

## 加藤周一文庫『海外報道に見る加藤周一』展を開催しました。

2015年秋、衣笠新図書館の開館に合わせて、「加藤周一文庫」が創設されます。加藤周一(1919-2008)は、本学の国際平和ミュージアム初代館長であり、20世紀日本を代表する国際的知識人です。加藤周一が残した蔵書、手稿ノート、資料類が本学図書館に寄贈されましたが、そのうち蔵書の一部、約12,000冊が創設時に公開されます。今回は、国際的に活躍した加藤周一が海外の一流新聞でどのように紹介されていたかを示す展示を行いました。



世界中の著名な大学で教鞭をとった経歴からもわかるように、加藤周一は英語、フランス語、ドイツ語を自在に操ることができました。新聞記者によるインタビューにもその国の言語で応じていることを記事から読みとることができます。海外の一流新聞に掲載された記事をはじめ、数多い著作、直筆の研究ノートや原稿も展示しており、大知識人加藤周一の一端をうかがうことのできる内容です。



## 日本の大学初、立命館大学を含む8大学による電子書籍の総合的実証実験の開始

立命館大学では、2013年10月1日より2014年3月末までの期間、大学図書館電子学術書共同利用実験に参加している8大学（慶應義塾大学（幹事校）、大阪大学、神戸大学、東京大学、名古屋大学、奈良先端科学技術大学院大学、福井大学、立命館大学）合同の、大学図書館における電子書籍の活用に関する総合的な実証実験に参加します。これまで1大学あるいは単独機関による電子書籍に関する実験は行われてきましたが、今回は初めての8大学に及び大規模な合同実証実験となります。

実験では、専用アプリを搭載したiPad等のデバイスでの利用実験や電子書籍の発見性を高めるナビゲーション・システムの検討、学生や研究者等が電子書籍化を期待している書籍の調査、電子教科書の配信・利用実験などを行います。

今回の実験により、大学図書館に共通する電子書籍の「利用のイメージ」が明らかとなり、本格的な電子書籍サービスの実現に必要な基礎データが収集されることが期待されます。また、実験期間中、参加大学と出版社との間でサービスの実用化に向けた話し合いも行っていきます。

これら参加大学での実験や出版社との「対話」を通じて、日本語学術書の電子化を促進することが、今回の大学図書館電子学術書共同利用実験の目的です。



## 衣笠キャンパスに新しい図書館が建設されます。

2011年度の全学協議会でも確認されている通り、衣笠キャンパスに新しい図書館が建設されます。

衣笠図書館は第1体育館跡地に生まれ変わります。2013年11月現在、第1体育館の解体工事が進められ、2014年から建設工事が始まる予定です。

新図書館は2015年秋に供用開始予定です。皆さんのより良い学習・研究環境整備を目指して構想の検討を進めています。新図書館の誕生を楽しみにお待ちください。

また、建設工事開始から新図書館がオープンするまで、随時、進捗状況を図書館HPにてお知らせしていく予定です。こちらもお楽しみに。



※全てのイメージは計画段階のもので、今後の検討状況によっては、変更となる場合があります。